

1. 評価結果概要表

作成日 2009年1月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0872901004
法人名	社会福祉法人 河内厚生会
事業所名	グループホームひだまり
所在地	茨城県稲敷市高田2817-2 (電話) 029-834-5225

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成21年1月27日	評価確定日	平成21年3月9日

【情報提供票より】(平成21年1月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	7 人	常勤	3人, 非常勤 4人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	(有) 150,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050円	

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	5名	男性	2名	女性	3名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.8歳	最低	72歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人美湖会 美浦路中央病院 ・医療法人社団広文会 江戸崎病院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家をリフォームしたホームは、高齢者の施設を全く感じさせないたたずまいになっている。玄関はいつも解放されており、調査に入る時にも「ただいま」と言ってしまうような温かい雰囲気がある。併設されたデイサービスとの利用者の交流は日常生活の一部となっており、利用者どうし共有空間で談笑している姿が自然にみられた。地域とのかかわりを一層深めるため自治会に入会しさらに外出の機会を増やし地域の理解を得られるよう心がけている。この活動により地域の理解も徐々に広がっているという実績もある。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善課題の一つである地域との付き合いに対し、自治会へ入会し自治会活動に職員が積極的に参加するようになった。その結果利用者が外出した時など地域住民が気軽に声をかけてくれるようになったり、畑の収穫物を渡してくれたりなど、地域の理解も深まっていることが理解できた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価作成に当たり管理者が中心となり、職員の意見を反映し職員全体で取り組まれていた。今後は、項目に対する職員の関わりをさらに多くする工夫に期待される。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議が定期的に行われていない。今後定期的に開催できるよう地域、行政、家族との連絡を密にし2カ月に一度の定期的な開催の計画がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見や苦情などは、直接聞き入れ対応するようにしている。また家族が遠方である場合も多く電話での連絡は特に多く持つよう配慮されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	昨年自治会に入会し、自治会活動に職員が積極的に参加することで、地域との連携を取るようにしている。また利用者も参加できるようなイベントがある時は職員と一緒に参加するようにしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念・グループホーム独自の理念を見やすく掲示し笑いの絶えない・心を共感するケアを目標に地域に根ざしたホームづくりに努力されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の浸透は職員の新人研修時やミーティング時などに管理者から職員に伝えられるよう配慮している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に昨年度から入会し、自治会活動に管理者および職員が参加している。状況を見ながら利用者の参加も計画されている。自治会の入会により近隣住民の利用者に対する対応の変化など地域との付き合いが今後期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価に管理者を中心に職員も参加している。職員も外部評価を理解し取り組まれていた。	○	次回は今回の積極的な取り組みを維持し、更なる職員の参加が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が定期的に行われていない。今後の計画もやや希薄さがある。	○	今後は2カ月に一回の開催を定期的に行えるよう工夫されたい。

茨城県 グループホームひだまり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村には、こまめな連絡の他管理者が直接足を運び連携や相談を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族への報告は利用者の変化時や、定期的にホーム便りなどを発行し連絡・報告されている。また電話連絡などは、記録を残し内容の確認を随時行っている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族からの苦情や意見は現在のところ聞かれていない。家族会などを発足し今後家族の意見の聴取に取り組めるよう計画がある。		重要事項説明書に解決責任者の明示されたい。
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動に関しては、認知症の利用者を考慮し補充を行う程度で、異動することは現段階では行っていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内での研修を年に5回ホーム独自の勉強会などを積極的に開催している。また外部研修などの参加を職員に促し自己責任において参加させている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他法人のグループホームとの職員間での行き来ができるよう計画している。今後は、利用者の交流ができるように配慮していく予定となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスや、見学、体験などを入居希望者に体験していただき、急な入居で混乱が起きないように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が共感し合える空間を提供できるよう配慮し、利用者の昔の知恵や意見なども取り入れられるよう配慮している。また車で10分程度のところに農園を借り利用者の意見を聞きながら畑の管理をするなど利用者の意見を実現する配慮がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や外出・入浴など利用者の希望や意見を聴き対応できるよう配慮している。特に入浴の時間の配慮は一日の中のほとんどの時間で入浴ができるよう工夫されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見を聴き入居から2～3日の様子を職員が積極的に観察しその内容を細かく記載し、家族だけの意見ではなく、入居後の様子を見ながら介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは、継続的、また利用者の変化により見直しが行われている。また利用者の急な変化などに細かく対応できるよう記録用紙を変えるなど独自の記録方法を利用し把握や見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所のほのぼのした雰囲気や自宅に帰ってきたような職員の面持ちなど独自雰囲気を生かしケアを提供している。併設されるデイサービスとの交流など利用者に対する刺激が多くなるよう工夫されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望によりかかりつけ医が選択できるようになっている。また往診による定期的な検診も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の医療依存度により病院への入院など状況に合わせた配慮がある。利用者の状況や家族の意向により終末期ケアを提供する計画はあるが、現状では看取りは行われていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを保護しカルテなど利用者個人の情報は、カーテンなどで見えない工夫がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の希望を、朝食時に聴取しその希望に添った個別的なケアが提供できるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員一人が見守りながら昼食を一緒にとるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は、一日の中のほとんどの時間で希望が可能になっており、利用者の希望により入浴が提供されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	車で10分ほど行った場所に広い農園を借り、利用者が畑仕事や時期を見ながら農作業ができるなど利用者の役割があり、楽しみ事と気晴らしの支援を提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ・ホーム外での活動など外出を多く取り入れたケアを提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室や玄関など鍵をかけないケアを提供している。また昼食後に外のベンチに座っている利用者が居たりと、職員の見守りの中鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度の避難訓練を実施している。	○	今後は、夜間を想定した避難訓練や自主的な避難訓練、利用者を交えた訓練などの実施が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の記録に水分や食事の摂取量など細かく記載され、利用者一人一人の状況が簡単に把握できるよう工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く明るく設置され、利用者思い思いの居場所があり不快な音やにおいなどが気になることはなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者馴染みの物品が多く配置されその人らしい空間が提供されている。また民家を利用した各居室は、広さや配置などが居室ごとに違い独自性が感じられた。		